

科目名 英会話Ⅰ	授業の種類 講義 (演習) 実習	授業担当者 戸澤 里美
時間数(単位数) 5単位	学年・時期 1 学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 ホテルや観光地において、外国人観光客とコミュニケーションをとり円滑な観光を手助けするための英会話を身に付ける。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① オリエンテーション、自己紹介に使う表現 ② 自分の持ち物、身の回りの物の表現 ③ 職業・時間・曜日の表現 ④ 様々な否定文 ⑤ 様々な質問の仕方と答え方 ⑥ 自分の住んでいる街・地図上での場所の説明方法 ⑦ 家の中の物の表現 ⑧ スポーツ・趣味・余暇の過ごし方 ⑨ できること・できないこと(助動詞) ⑩ 行動・能力・希望を伝えるための表現(助動詞) ⑪ English for Everyone 振り返り ⑫ 電話やオンラインでの予約のとり方 ⑬ チェックインに関わる英語表現(ホテルの到着から館内・室内の設備案内まで) ⑭ ホテル内でのサービスに関わる英語表現(ゲストの要望への応え方、ルームサービス等) ⑮ ホテル併設のレストランでの英語表現(予約の受け方から会計まで) ⑯ コンシェルジュ・デスクでの対応方法 ⑰ 様々なトラブルへの対応方法 ⑱ チェックアウトに関する英語表現(会計からお見送りまで) ⑲ Everyday English for Hospitality Professionals 振り返り		
〔使用テキスト・参考文献〕 English for Everyone course book level1 Everyday English for Hospitality Professionals	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 試験における口頭試問 (40点～59点 C 評価、60点～79点 B 評価、80点～100点 A 評価)	
〔関連科目〕		

科目名 中国語会話Ⅰ	授業の種類 講義 (演習) 実習	授業担当者 劉 爽 (リョウ シュアン)
時間数 (単位数) 6単位	学年・時期 1学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 日常生活に必要な語彙、表現をより多く習得し、中国語でのコミュニケーションを図ることを目的とする。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① ガイダンス ② 中国語の基礎 ③ 数と助動詞 ④ 補語 ⑤ 修飾語 ⑥ 構文パターン ⑦ 中国語の基本のフレーズ ⑧ よく使われる役立つフレーズ		
〔使用テキスト・参考文献〕 「必ず話せる中国語入門」	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 口頭試験 60%、筆記試験 25%、その他 15% (40点～59点 C 評価、60点～79点 B 評価、80点～100点 A 評価)	
〔関連科目〕		

科目名 韓国語会話Ⅰ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 金 昞奎（キム ビョンギョ） （実務経験：韓国語会話スクールにて日常会話等の講師および留学紹介等の業務に従事）
時間数（単位数） 6 単位	学年・時期 1 学年	区分 必修 選択
〔授業の目的・ねらい〕 韓国語において易しい単語と短い文書で話せる。 日常生活に関する簡単な会話ができる。 食堂、空港、タクシー、地下鉄、商店などで使用する定型化された会話ができる。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ① 敬語の表現 ② 羅列表現、位置表現 ③ 数について、位置表現 ④ 数について、電話番号 ⑤ 旅行韓国語：空港、タクシー、地下鉄 ⑥ 羅列表現、目的地表現 ⑦ 場所と行動の表現 ⑧ 買い物、なにかを希望する際の表現 ⑨ 否定文、段位名詞 ⑩ 旅行韓国語：食堂、商店、ショッピング		
〔使用テキスト・参考文献〕 美しい韓国語 1-1、1-2	〔単位認定の方法及び基準〕 （試験の評価基準など） 定期試験（口頭試験）により評価、40 点以上を合格とする。 （40 点～59 点 C 評価、60 点～79 点 B 評価、80 点～100 点 A 評価）	
〔関連科目〕		

科目名 観光管理Ⅰ	授業の種類 (講義) 演習 実習	授業担当者 柴田 俊光
時間数(単位数) 3単位	学年・時期 1学年	区分 (必修) 選択
〔授業の目的・ねらい〕 国家試験である国内旅行業務取扱管理者及び地域限定旅行業務取扱管理者合格に向けた学習を行う。旅行業法において旅行業等に必要な法律を理解し、標準約款において旅行業等と旅行者に発生する義務権利について学ぶ。また、JR・航空等の実務理解や、国内観光資源理解により観光に携わる人材としての即戦力を身につける。 ・観光庁 地域限定旅行業務取扱管理者(9月) ※平成30年より施行、平成31年より受験予定 ・観光庁 国内旅行業務取扱管理者 ※2年次に受験する事を目標とした事前学習を行う。		
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 ①旅行業法及びこれに基づく命令 ②約款(標準旅行業約款) ③国内運賃料金 ④国内観光地理		
〔使用テキスト・参考文献〕 各担当教員が指定する	〔単位認定の方法及び基準〕 (試験の評価基準など) 定期試験により評価、40点以上を合格とする。 (40点～59点 C評価、60点～79点 B評価、80点～100点 A評価)	
〔関連科目〕		

科目名 観光基礎Ⅰ	授業の種類 講義 演習 実習	授業担当者 土澤 満
時間数（単位数） 2単位	学年・時期 1学年	区分 必修 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>北海道の観光と地元北見を中心に、北海道を訪れる観光客に対して、その地域の観光知識のみならず北海道全体に関する幅広い知識を持って接することにより、北海道の観光振興への意識とホスピタリティの向上を図ることを目的とする。</p> <p>最終目標は、北海道観光マスター検定および北見観光マスター検定の合格を目指す。</p>		
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>① 北海道観光マスター</p> <p>第1章 北海道観光マスターについて</p> <p>第2章 北海道の基礎情報</p> <p>第3章 北海道の観光地</p> <p>第4章 北海道の歴史</p> <p>第5章 北海道の祭り</p> <p>第6章 北海道の自然</p> <p>第7章 北海道の交通網と交通機関等</p> <p>② 北見観光マスター</p> <p>第1章 北見市の歴史</p> <p>第2章 北見市の基礎情報</p> <p>第3章 北見市の観光地</p> <p>第4章 癒し・温泉</p> <p>第5章 北見市の祭り・イベント</p> <p>第6章 北見市ご当地グルメ</p> <p>第7章 世界遺産・ユネスコ遺産・イランカラブテ</p> <p>第8章 北見市を囲む三大国立公園</p> <p>第9章 北見市のキャラクター・オホーツクのキャラクター・北見自慢話</p> <p>第10章 北見市の年表</p>		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>1 北海道観光ハンドブック （北海道観光マスター検定公式テキスト 第6版）</p> <p>2 北見市観光テキスト （北見市観光協会連絡協議会 北見市観光協会）</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>（試験の評価基準など）</p> <p>定期試験により評価、40点以上を合格とする。 （40点～59点 C 評価、60点～79点 B 評価、80点～100点 A 評価）</p>	
<p>〔関連科目〕</p> <p>観光演習Ⅰ</p>		

科目名 観光演習Ⅰ	授業の種類 講義 (演習) 実習	授業担当者 土澤 満
時間数(単位数) 2単位	学年・時期 1学年	区分 (必修) 選択
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>観光基礎において北海道に関する基礎知識を学習し、旅行の企画・プレゼンテーションを実施。採用された企画をフィールドワークとして体験する。近隣にある観光スポットを巡る企画、さらに年4回のフィールドワークを計画・実施。また、第一線で働く講師からのアドバイスをいただき、「Plan(計画)-Do(実施)-See(検証)」を行う。将来ホスピタリティ業界で働く学生の基礎を目指す。</p>		
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕</p> <p>① 旅行企画</p> <p>1) 概要説明(企画の考え方、作業の進め方)</p> <p>2) 基礎知識の習得(距離計算、収支計算、テーマの注意点、プランニングのポイント)</p> <p>② グループワーク</p> <p>1) 企画・打合せ・振り返り (テーマの仮決定、行程作成、ツアーテーマの最終決定、各手配準備、料金確認)</p> <p>2) プレゼンテーション内容の検討・準備 (プレゼンテーション内容の検討・再構成、パワーポイントの作成、企画発表準備、プレゼンテーションのシュミレーション、資料作成)</p>		
<p>〔使用テキスト・参考文献〕</p> <p>プリント・作成資料</p>	<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <p>(試験の評価基準など)</p> <p>定期試験により評価、40点以上を合格とする。 (40点~59点 C評価、60点~79点 B評価、80点~100点 A評価)</p>	
<p>〔関連科目〕</p> <p>観光基礎Ⅰ</p>		